

## 会 議 の 状 況

平成 29 年度第 1 回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議合同会議

1. 日 時 平成 29 年 5 月 22 日 (月) 14:00~16:00

2. 場 所 ホテル青森 3 階 孔雀の間

3. 出席委員 57 名

## 4. 提出資料

資 料 1 会議の状況

資 料 2 環境放射線モニタリングの流れ

資 料 3 原子力施設環境放射線調査報告書(平成 28 年度第 3 四半期報)

資 料 4 東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書(平成 28 年度第 3 四半期報)

参考資料 1 原子燃料サイクル事業の現在の状況について

参考資料 2 東通原子力発電所の現在の状況について

参考資料 3 リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況について

## 5. 概 要

## (1) 議事

ア 原子力施設環境放射線調査結果(平成 28 年度第 3 四半期)について

## (イ) 原子燃料サイクル施設

県及び日本原燃(株)から資料 3 により説明があり、次のとおり確認された。

- ・原子燃料サイクル施設に係る平成 28 年度第 3 四半期の環境放射線等調査結果は、これまでと同じ水準であった。原子燃料サイクル施設からの影響は認められなかった。

## (ロ) 東通原子力発電所

県及び東北電力(株)から資料 3 により説明があり、次のとおり確認された。

- ・東通原子力発電所に係る平成 28 年度第 3 四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。東通原子力発電所からの影響は認められなかった。

## (ハ) リサイクル燃料備蓄センター

県から資料 3 により説明があり、次のとおり確認された。

- ・リサイクル燃料備蓄センターに係る平成 28 年度第 3 四半期の環境放射線調査結果はこれまでと同じ水準であった。

委員から、キャベツの炭素-14 放射能濃度が平常の変動幅を上回ったことについて質問があり、県から、キャベツの水分量がこれまでと比較し、明らかに低く、生重量あたりの放射能濃度が高くなったと考えられる、また、比放射能は平常の変動幅の範囲内であり、施設からの影響はないと判断されるとの説明があった。

委員から、空間放射線量率が過去の測定値を上回ったことについて質問があり、県から、ビスマス-214等が検出されたが、人工放射性核種は検出されなかった、また、同時期帯に複数の地点で空間放射線量率の上昇が見られたとの説明があった。

- イ 東通原子力発電所温排水影響調査結果（平成28年度第3四半期）について  
県から資料4により説明があり、今後も引き続き調査を継続し、データの収集に努めていくこととした。

(2) その他

ア 原子燃料サイクル事業の現在の状況

日本原燃(株)から参考資料1により、各事業の運転状況等について説明があったほか、新規制基準への対応状況、品質保証活動の是正措置に係る状況及び原子力事業者防災業務計画の修正等について説明があった。

イ 東通原子力発電所の現在の状況

東北電力(株)から参考資料2により、東通原子力発電所の運転状況等について説明があったほか、原子力災害時における北海道電力(株)との相互協力に関する基本合意、原子力事業者防災業務計画の修正及び東通原子力発電所敷地内断層に関する追加調査について説明があった。

ウ リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況

リサイクル燃料貯蔵(株)から参考資料3により新規制基準に係る適合性審査の状況及び原子力事業者防災業務計画の修正について説明があった。